

1) 子どもはどちらが多い? と問う。「大きい」と「多い」の言葉の違いは印象づけること。  
2) 左右の子どもとを1対1対応の線をつなぎ、残りも円で囲む。残りの方が多いと教える。  
3) 不等号 (<, >) を用いて多少関係を表す。

a) 多い少ないを1対1対応の操作を通して理解させていく。数の最も基本的な原理であり機能である。  
b) 「大きい・小さい」と「多い・少ない」の分化と統合は、課題を進めるうちに次第に理解していく。  
c) 不等号による表現形式になじむ記号体験。

Date /  
Note  
評



どちらがおおいか  
せんで つなごう。


